

橋本元司の「価値創造の知・第 148 夜」:『真の企業再生・創生』とは？

2018 年 5 月 19 日 再考・再興

前夜(第 147 夜)に、パイオニア社長交代発表と「真の企業再生のための 3 つの切り口」を綴りました。

そして、その中でも「③リオリエンテーション」の重要性を切望しました。
そこでは、前職・パイオニア社を切り口にしていますが、多くの業種業態や地方も同じ状況であることを体験してきました。

本夜は、「再考・再興」の方法と心得がありますが、「心得」を中心に綴ろうと思います。
それでは、心得の「3 つの切り口」から入ります。

- ①「未来から逃げない」こと
- ② 眼前の現実が「欠けたモデルである」と共通認識すること
- ③ 現状から「逸脱」すること

それでは、順を追って記します。

① 「未来から逃げない」こと
時代とマッチングして、過去に最盛があった「経営陣」の方たちから出てくる言葉が時
「昔はよかった」
昔を懐かしむ言葉です。その気持ちはわからないではありません。

自分が若い時、健康であった時を想う気持ちと似ていますね。
「人間」は若返らせることは、いまはできませんが、「経営」は革新することができます。

「現在の延長線上に未来はないこと」

そして、
「未来から逃げないこと」

そうすると、先ず「内側」を変えていくしかない、という気付きや想いが湧き上がります。
「パイオニア・スピリッツ」ですね。
「開拓者精神」に戻り、それを発揮するにはどうしたらいいのだろうか？

「答え」を提示するよりも、このような「問い」を投げかけることがとっても重要なのです。
自分が内省し、「当事者意識」を持つことが始まりです。

- ② 眼前の現実が「欠けたモデルである」と共通認識すること

それは、第 136～137 夜に綴りました。
「魅力」がなくなっているということです。

無常迅速ですから、「満月」と思っていたモデルが「欠ける」ことは常態です。
「月」は満ち欠けを繰り返しますが、経営は、勝手に「満ちる」ことはありません。

過去のモデルに戻るのではなく、自分たちの宝物(リソース)を半分組み込みながら、
顧客・社会から喜ばれる「新モデル」に再考・再興するという共通認識が必要です。

重要なのは、「誰」がそれを最初に認識するのか？
ということです。

③ 現状から「逸脱」すること

過去のやり方・考え方を、現在・将来の「真実の基礎」にしてはいけません。
ここでも重要なのは、「問いかけ」です。

- ・眼前にある過去のやり方・考え方についてあなたは同意しますか？反対しますか？
- ・あなたはどう思いますか？考えますか？

これが「鍵」です。
それは「価値観」を問いかけることと同じです。

過去のやり方・考え方を超えるということは、「逸脱」することです。
さて、「イノベーション」とは逸脱することです。
ただし、勘違いしてはいけないことがあります。
その逸脱の大元には、顧客・社会を「幸せ」にする“深い知・高い知・広い知”があることです。
それを持って、未来に向かう人たちを「パイオニア・開拓者」と呼びます。

価値創造から、「事業創生・地域創生・人財創生」へ

「パイオニア・ルネッサンス」第2弾！

再考・再興の心得：3つの切り口

1. 「未来から逃げない」こと
2. 眼前の現実が「欠けたモデルである」認識
3. 現状から「逸脱する」こと

～『真の企業再生・創生』～